

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 ■事務事業の概要

1 - 1 事務事業の名称	国際化に対応するサポート事業									
1 - 2 担当	部	健康福祉部	課 又は施設	医療健康課	係	健康係	評価票作成者	母子保健担当係長 岡田恵子		
1 - 3 総合計画における施策の体系	節	保健福祉 「健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり」				基本施策	地域医療		コード	2—1—4
						単位施策(中)	医療サポート体制の充実		コード	2—1—4—1
	項	健康				単位施策(小)	国際化に対応するサポート体制		コード	2—1—4—1—2
1 - 4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	外国人登録者（１８５３人：１８年４月現在）		意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		日本語がよく理解できない外国人が、健康問題に対して安心して暮らせるようにする。				
1 - 5 事務事業の内容	市が実施する保健事業で、安心して参加できるよう通訳を配置し、説明文の翻訳を作成して言葉の障害を少なくする。また、地域医療機関へも問診票の翻訳情報等を提供する。									

2 ■事務事業実施の状況

2 - 1 事務事業の実施における基本認識	平成18年度	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み 母国語以外の言語に対して理解難しいポルトガル語に重点を置く。			社会状況等の事務事業がおかれる環境把握 日系外国人の増加がめまぐるしく、その母国語での対応の必要性が高い。		市民ニーズの認識 保健・医療受診時の安心感。				
	平成19年度	〃			〃		〃				
	平成20年度	母子保健事業及び予防接種事業に関する事業のＰＲ紙や予診票や説明文等は数力国語の翻訳ができています。			〃		〃				
	平成21年度	〃			〃		〃				
	平成22年度	事業に対するＰＲ誌等は、数ヶ国語の翻訳で対応している。外国人は、圧倒的にポルトガル語圏の方が多く、事業実施においては、配慮している。									
	平成23年度										
	平成24年度										
	平成25年度										
	平成26年度										
	平成27年度										
	2 - 2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名				前期目標値(種類)	後期目標値(種類)	指標の説明			
外国人向けパンフレット作成				7	10	通訳で即時の対応のほか、日本での予防接種の制度のあらまし、市での予防接種の種類毎の実施時期や方法・健診等の実施時期や方法等、普通に保健活動をお知らせできる案内チラシ等の種類。					
2 - 3 成果指標に係る活動実績とコストの推移（アウトプット分析）		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
	活動実績 a（単位）	1（種類）	3（種類）	4（種類）	4（種類）	4（種類）					
	直接事業費 b（千円）	100	507	100	—	—					
	人件費 c（千円）	34	96	26	—	—					
	合計コスト d（b＋c） （千円）	134	603	126	—	—					
	単位コスト d / a （千円）	1種類 当たり 134	1種類 当たり 201	1種類 当たり 32	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績（活動数値）の補足説明 → 市民協働課から週2回午後に通訳の派遣あり。それが定着し、その時間に問い合わせや来所されるようになった。外人向けチラシ等は既存分で対応。冊子「予防接種と子どもの健康」、予防接種予診票、予防接種資料と事業案内八ガキのポルトガル語版、年間行事予定表の英語版と中国語版）

		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
２－４成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績（種類）	１	３	４	４	４					
	後期目標値に対する達成度（％）	10.0	30.0	40.0	40.0	40.0					

３ ■ 事務事業の自己評価結果

３－１ 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成１８年度	平成１９年度	平成２０年度	平成２１年度	平成２２年度	平成２３年度	平成２４年度	平成２５年度	平成２６年度	平成２７年度
	単年度 担当課評価	Ｂ	Ａ	Ａ	Ａ	Ａ					

- ４段階評価結果

Ａ：上位目的である施策に貢献しているので継続する

Ｂ：事務事業の実施手法や環境（予算的・人的）に改善が必要

Ｃ：縮小等、事務事業としての見直しが必要

Ｄ：事務事業の廃止が相当
- 判断の基準

必要性（必要な事務事業であるか）

公共性（公が実施する意味があるか）

妥当性（ニーズに対して投入が適正か）

効率性（結果に至る活動に無駄はないか）

有効性（活動の結果が上位の目的に貢献しているか）

市民満足度（事務事業が対象にしている市民を満足させているか）

		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
３－２評価の内容	平成18年度	市の健診・予防接種で、受診者が安心して参加できる場の提供	受診票・問診票の充実	乳児健診等の説明が通訳を通して、よく理解されるようになった。
	平成19年度	〃	市民協働課と連携しながら、安心して医療機関にかかれるよう努める。	通訳の需要が年々増加しているが、健康課への通訳の配置時間の周知を図り受診者へ配慮した。
	平成20年度	〃	市民協働課と連携しながら、安心して医療機関にかかれるよう努める。	通訳の需要が年々増加しているが、健康課への通訳の配置時間の周知を図り受診者へ配慮した。他団体等で発行しているチラシ等で、利用可能なものを用意した。
	平成21年度	〃	〃	〃
	平成22年度	ＰＲ誌の対応だけでなく、子どもの健診や予防接種実施日には、ポルトガル語通訳者を配置している。		
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

４ ■ 事務事業の総合評価結果

		結果	審査会による改善方向の指示
４－１総合評価の結果	平成18年度	Ｂ	外国人向け案内チラシ等の種類の増加に努めること。
	平成19年度	Ａ	活用が進むように工夫をすること。
	平成20年度	Ａ	継続して事業を進めること。
	平成21年度	Ａ	継続して事業を進めること。
	平成22年度	Ａ	継続して事業を進めること。ただし、外国人向け案内チラシ等の種類増加について検討すること。
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		